

エイラクブカ



体をくねらせて泳ぐエイラクブカ (水槽番号101)

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

43

加藤 哲哉

白浜水族館に入って最初の水槽は総水量約250トの大水槽だ。いきなり1級級のロウニンアジ

サメの仲間は軟骨魚と呼ばれ、骨格が軟骨でできている。サメのほかにエイやギンザメの仲間も軟骨魚である。一方、アジやマタイなどは、骨格が硬骨でできっており、硬骨魚と呼ばれる。

サメの仲間は軟骨魚と対して1対の鰓孔がある。硬骨魚のえらも5対あるが、えらぶたで覆われているため、鰓孔は1対となるわけだ。軟骨魚でもギンザメの仲間は鰓孔が1対しかない。

ちなみに、エイとサメ魚の雌雄の区別は簡単でサケの産卵シーンを見たことのある人も多いだろう。

どこ違う? 軟骨魚と硬骨魚

ヤンガメアジと目が合うのでびっけりし、そこから注目がいつてしまつが、水槽の底の方では、サメの仲間のエイラクブカが体をくねらせて泳ぐ姿を見ることが出来る。はたしてアジなど一般の魚とサメの仲間では、どこが違うのだろうか。

このほかにも多くの違いはあるが、水槽で観察しやすい相違点を紹介しよう。

最も分かりやすいのが鰓孔(さいこう)の数だ。エイラクブカの目より少し後ろに、スリット状に切れ込んだ5つの鰓孔が開いている。えら1対に

だ。卵は雌の体内で受精するが、卵として産卵するものと、卵が雌の体内で発生し、子どもとして産むものがある。

さらには、尾びれの付き方や、うろこの構造などにも違いがあるので、調べてみると面白いだろう。(京都大学技術職員)

これに対して、軟骨魚は、雄が交尾器を使って雌の輸卵管内に精子を送る体内受精型である。軟骨魚の交尾器は腹びれの内側に左右1対ある。これは生まれたばかりの赤ちゃんもあるので、軟骨魚の雌雄の区別は簡単